

## [12] 日向市小体連

(学校数13校 児童数3,527人)

### I 年間事業

実施日	事業名	主な内容	会場
5月23日(木)	第1回理事会	役員選出、年間計画	日向市中央公民館
8月6日(火)	第2回理事会	各学校での水泳記録の集約 市陸上大会について 今後の研究の進め方について	塩見小学校
10月2日(水)	体育指導振興職員による 体育サポート授業参観	短距離走、バトンパスの指導を中心とした授業の参観	塩見小学校
10月15日(火)	第3回理事会	市陸上大会について 今後の研究について	教育研究所 (日知屋小学校)
10月31日(木)	第4回理事会	陸上大会前日準備・打合せ	大王谷陸上競技場 大王谷学園
11月1日(金)	陸上大会、第5回理事会	陸上大会役員 記録集計、陸上大会反省	大王谷陸上競技場 大王谷学園
11月29日(金)	第6回理事会	次年度の陸上大会に向けて 研究のまとめ	日向市中央公民館
1月30日(木)	第7回理事会	研究内容のまとめ	日向市中央公民館
2月13日(木)	第8回理事会	次年度の方向性について	日向市中央公民館

### II 事業部のあゆみ

#### 1 水泳大会(水泳記録会)

- (1) 大会名 第48回日向市小学校水泳大会(水泳記録会)
- (2) 実施期日 令和元年7月19日(金)まで
- (3) 会場 各小学校
- (4) 出場者 日向市内各小学校5・6年生代表(名)
- (5) 実施種目 自由形(25m・50m)、平泳ぎ(25m・50m)、リレー(25m×4名)
- (6) 競技方法
  - タイムレースとする。
  - 競技は原則として学年別、男女別とする。
  - 各学校で記録を測定するため、タイムにばらつきが生じないように、宮崎県小学校体育連盟標準記録認定要領の記録に準じて記録をとるようにする。
  - 記録は上のルール条件を満たす個々のベストタイムを提出し、集約する。
- (7) 表彰
  - 各会場で測定した記録を集計し、上位8位までを入賞として表彰する。
  - 参加児童全てに記録賞を渡す。
- (8) 反省

昨年度と同じく水泳大会を実施するのではなく、各学校で開催をした。前年度の反省を受けて、今年度は小体連として細かなルール設定や調整を行い、それを日向市全体で共有した上で、各学校による記録の測定を実施した。この記録会の目的を、日頃の水泳学習の記録を集約し、それを賞賛する機会を設定することで、自己の課題に応じた泳力向上の意欲と技能の向上を図ることとしたため、たくさんの児童に賞状を配り、賞賛することができた。記録に関しては、男子7名、女子2名が標準記録を突破することができた。

## 2 陸上大会

- (1) 大会名 第49回日向市小学校陸上大会
- (2) 実施日 令和元年11月1日(金)
- (3) 会場 大王谷陸上競技場
- (4) 出場者 日向市内小学校6年生全児童 (621名・小規模校は5年生児童含む)
- (5) 実施種目 ○ 走り高跳び ○ 走り幅跳び ○ ソフトボール投げ  
○ 50mハードル走 ○ 短距離走(100m)  
○ 長距離走(男子1000m、女子800m)  
○ リレー(100m×4名)
- (6) 競技方法 ・選抜での出場はリレーを除き、1人1種目とする。  
・「走」競技は、スタンディングスタートとする。  
・靴は、普段体育で使用する運動靴とする。  
・その他細部については、日向市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
- (7) 日程 開会式 9:30~ 競技 9:50~11:25 閉会式 12:45~
- (8) 表彰 ○ 上位8位までを入賞として表彰する。  
○ 一般短距離走の各組の上位3名に記録賞を渡す。
- (9) 反省

今年度も晴天で、水泳大会でも懸念された熱中症の心配も少ない穏やかな気候のもと、陸上大会を実施することができた。児童も絶好のコンディションのもと、日頃の練習の成果を発揮することができたように感じる。また、昨年度の反省を生かしながら、半日で行えるよう本年度の計画を立てて準備・運営を行った。多少時間が押してしまったが、各学校の先生方にもご協力いただき、安全面にも配慮しながら運営できたことは大変良かった。

記録に関しては、標準記録突破者が男子6名、女子5名と昨年に比べ大きく増えた。ただ、記録向上以外でも、今年度は中学校校区ごとに児童の応援席を設けたため、他校の児童と関わり合おうとする児童の姿が多く見られ、児童にとって大変有意義な時間になったように感じる。さらに、6年生全員が一同に会する機会なので交流・学びの時間も設定した。そこでは日向市子どもの夢サポート事業を受けており、全日本小学校陸上競技大会の100m走に出場した財光寺中1年在籍の中富優依さんに来ていただき、私生活で気を付けていることや夢を叶えるためにどのような努力をしているのか子ども達に語ったり、模範演技で実際に子ども達と共に走ってもらったりした。子ども達も普段からの努力の大切さを実感できるよい経験になったようである。競技面や運営面で反省したことを確実につなげることで、次年度は、より良い大会運営ができるようにしたい。

### Ⅲ 研究部のあゆみ

#### 1 研究主題及び副題

確かな知識・技能を身に付けた児童の育成  
～ 「運動好きな子」「競技力の向上」の実現を目指して ～

#### 2 主題設定の理由

平成29年3月31日に新しい学習指導要領が告示され、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善という新たな授業スタイルが示された。このような新たな授業スタイルの導入の背景には、現代の子どもたちを取り巻く社会的課題がある。特に、子どもの貧困率の上昇による体験活動の減少、特別支援教育の対象となる子どもの増加、外国籍の子どもや親の増加による言語や文化の多様化等があげられる。そのため、未来を生きる子どもたちは、社会を取り巻く諸問題に対し主体的にかかわりつつ、多様性を尊重しながら異質の他者と協働していくことを迫られている。さらに、既存の解決方法を適用するのではなく一人一人が自分の考えや知識を持ち寄り、新たな答えを導き出す学習を取り入れることも同時に求められている。

これを受けて、日向市小体連では、昨年度は確かな知識及び技能の育成を目指して、「学習過程の工夫」、「実態調査による課題の明確化」、「職員研修」の3つの視点から研究を行った。その結果、児童が競技力の向上を目指して、自己の適性に応じた解決すべき課題を知り、その課題の解決方法に応じた行い方を理解するなど、児童が「分かってできる」「できて分かる」といった経験を重ね、各種運動を児童が楽しいと思うといったプロセスを経て、本市が目指す児童の姿に近づくのではないかと考えた。そこで今年度は、ゴールイメージを「運動好きな児童を増やす」、「児童の競技力の向上」と焦点化して研究に取り組み、確かな知識・技能を身に付けた児童を育成する方法を究明することにした。

#### 3 研究の目標

体育科学習において、「分かる」「できる」実感から運動を楽しみ感じ、確かな知識・技能を身に付けた児童を育成する。

#### 4 研究の仮説

体育科学習の指導において、実態調査による課題の明確化をし、技能と知識が相関的に高め合える学習指導を工夫すれば、確かな知識・技能を身に付けた児童を育成できるだろう。

#### 5 研究内容

##### ○ 体力向上プランを基にした児童の課題分析と対策の検討

日向市の児童の実態を詳しく分析するために、各学校で作成した体力向上プランを持ち寄り、本市児童の傾向を把握し、その対策についても検討を行う。

#### 6 研究の実際

##### ○ 体力向上プランを基にした児童の課題分析と対策の検討

昨年度は教師の課題意識を調査するアンケートを実施した。それにより、教師の指導における苦手意識の把握や教師から見た児童の実態を把握することができたが、更に本市児童の実態を詳しく分析するために、各学校で作成した体力向上プランを持ち寄り、分析を行うことにした。

その結果、本市児童は特に「立ち幅び」「シャトルラン」「ボール投げ」の3種目において、県平均を下回る児童が多いことが課題として挙げられた。そこで、さらに各学校で行っている取組について協議を行い、対策を検討した。

種目	立ち幅跳び
要因	○ 生活の中で立ち幅跳びの動きになるような経験がない。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 跳ぶという遊びをあまりしていない。</li> <li>○ 上半身と下半身の連動した体の動かし方ができていない。</li> </ul>
対策・取組	<p>【体育科学習において】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業で両足跳びやカエル跳びなど取り入れたサーキットトレーニングを継続的に行う。</li> <li>○ マットに点数を明示するなど、点数を意識した練習を取り入れる。</li> </ul> <p>【体育科学習以外において】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動場に学年ごとの目標記録を示し、休み時間などに子どもたちが自由に挑戦できるようにする。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 低学年～高学年までの縦割り班で実施している学校もある。</li> </ul>

種目	シャトルラン
要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 持久力が必要な運動や遊びが少なく、外での遊び方を知らない児童が多い。</li> <li>○ 体の動かし方、コントロールの仕方が分からない。</li> <li>○ 年間を通して、持久力を高める様な運動に取り組めない。</li> </ul>
対策・取組	<p>【体育科学習において】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業前や準備運動の中に「走」の運動を取り入れ、運動量を確保する。</li> <li>○ 目標設定を行い、その回数に達するよう意識させる。</li> </ul> <p>【体育科学習以外において】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 遊びの中に「走」の運動を取り入れ、定期的に走って遊ぶ機会を設ける。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 秋季（冬季）体力テストを設け、再チャレンジを行い、自己の伸びを確認する。</li> </ul>

種目	ボール投げ
要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 投げる経験が少なく、投げ方が分からない。</li> <li>○ 投げ方の指導の徹底ができていない。</li> <li>○ 体力テスト時のウォーミングアップ時間が不足している。</li> </ul>
対策・取組	<p>【体育科学習において】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新聞紙ボール、目標地点の的の設置などの教材・教具や場の設定を工夫する。</li> <li>○ 投げる力を強化する運動（8の字運動、ラダーを用いた下半身の強化など）を授業に取り入れる。</li> </ul> <p>【体育科学習以外において】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ゲーム的要素を取り入れた遊びで投げる運動が好きな子が増えた。</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 委員会が中心となり、投げ方のポイントを教える。</li> </ul>

## 7 成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- 各学校で効果のあった取組を共有し、課題の解決に向けて協議することができた。
- 目標設定やゲーム要素など、効果のあった取組には特徴があることも分析することができた。

### (2) 今後の課題

- 共有した取組の実践を行い、児童の体力の変容について続けて究明する必要がある。
- 一単位時間でどのように指導するのか、具体的な指導についても整理する必要がある。